



この美しい花が
町の誇り、人々の希望となるよう
かならずやり遂げたい。

組員
富永直樹 Naoki Tominaga

以前は都内の会社で働いていましたが、脱サラして農業をしたいと考え、2011年に移住しました。ところが、いざ農業を始めようと思った矢先に震災が起き、拠点としていた川俣町山木屋地区に避難指示が発令。その後はやむなく町の施設で事務職に携わっていましたが、農業に対する憧れが消えることはありませんでした。そのことを知っていた町役場の方が、ポリエステル媒地栽培プロジェクトについてお声がけくださり、「ぜひやってみたい」と11人目の組員として仲間に加えてもらったんです。栽培に関してはまったくの素人ですが、近畿大学や組員からの指導を受け、勉強しながらしっかりノウハウを受け継ぎ、確実に良い結果を出していきたいと考えています。こう見えても実はすごく慎重派なんです(笑)。そしていつか川俣の地に「かわまたアンスリウム御殿」を建てられたら良いな、と思っています。形に見える結果を残すことによって、若い人たちに夢と希望を与えることができれば嬉しいですし、それが僕たちに与えられたミッションのひとつでもあるんじゃないかと考えています。この新しいチャレンジに燃えています！



川俣町ポリエステル媒地活用推進組合 組合長
鳴原秀雄 Hideo Shighara

今回、アンスリウムのポリエステル媒地栽培プロジェクトを事業として本格的に進めていくことになりました。川俣町を通じて賛同者を募ったところ、11名の組員が「かわまたアンスリウム」の生産に携わることになりました。近畿大学の全面的な協力に加え、福島県や復興庁からのバックアップをいただけたことも心強く感じております。さらに夏場でも日持ちがするアンスリウムの特徴を活かし、「復興五輪に東北の花は欠かせない」との観点から、2020年の東京五輪でメダリストに贈る花として採用する検討が始まっています。丈夫で高品質な「かわまたアンスリウム」の今後にご期待ください！



事務局
安田秀吉 Hideyoshi Yasuda

5年ほど前から小菊など花の生産を行っています。今回のプロジェクトを知り参加する決心をしました。ポリエステル媒地を活用したアンスリウム栽培の魅力のひとつは、生産管理による出荷調整が容易だということ。商品価値を落とすことなく、働き方の調整もできます。川俣町のように高齢者比率が多い地域での活用は非常にメリットが大きい。この南国の花は誰もが作れるわけではありませんし、ほとんどを輸入に頼っています。そんな花を寒い福島県で作るなんて夢があるじゃないですか。2020年、東京五輪の晴れ舞台で「かわまたアンスリウム」を世界に知ってもらうことが実現できれば最高ですね！



副組合長
高橋佑吉 Yukichi Takahashi 高橋恵子 Keiko Takahashi

地元で50年以上、土木建築業を営んできました。震災後、川俣町を復興支援するプロジェクトとして近畿大学がこの地に栽培研究用ハウスを建てることになりました。その管理を任されたのがキッカゲで、私が最初の組員ということになります。当初、栽培のことは何もわかりませんでした。ハウスの設備と機器は近畿大学で常時モニターされており、手を入れる内容やタイミングを的確に指示してくれるのです。この歳になって新しいことを始めるとは思っていませんでしたが、美しい「かわまたアンスリウム」に囲まれ毎日が楽しいです。妻との会話も増え、これからも二人三脚でがんばっていききたいと思います！



—メイド・イン・かわまた—
かわまた
アンスリウム
—Anthurium—

組員
谷口豪樹 Gohki Taniguchi

震災後、前職の転勤先で妻と知り合い結婚しました。妻の実家が山木屋地区の農家でしたので、立ち行かない様子を近くで見っていました。自分に出来ることが無いか模索していた時にこのプロジェクトと出会い、チャレンジしてみようと思ったのです。一番のモチベーションは「誰もやらないなら僕がやる」という使命感。少しずつでも構わないので、後に続く若者が増えていったら嬉しいです。このタイミングで「かわまたアンスリウム」に出会えたことは運命と感じていますし、ポリエステル媒地の可能性にも期待しています。ちなみに組員の中では最年少で、ゴルフのティーチングプロの資格を持っています！

鮮やかで丈夫な純国産。
わたしたちの誇り、
かわまたアンズリウムが
できあがりました。

その、魅力。

気候が生み出す鮮やかな発色と驚異の品質

本来、アンズリウムは熱帯が原産で、暑さに強く寒さに弱い常緑多年草です。国内流通の95%を海外からの輸入に頼っており、国産は一部の県でわずかに生産されているのみ。それを最新の栽培技術により、東北の川俣町（福島）で安定して生産することに成功いたしました。独自の管理を施したハウス栽培により、通常のアンズリウムを超える鮮やかさと、類い稀な大きさを実現。寒暖の差を利用することで茎は太く丈夫に生育し、驚くほど経年変化に強い品種となっています。今後は増産体制を整えて、みなさまのお手元に安定的な供給ができるよう準備を進めます。「かわまたアンズリウム」を復興の花として、その魅力を発信していきたいと思います。

ポリエステル媒地の採用と近畿大学の継続的な支援

古着などをリサイクルして作られた、スポンジのような手触りの「ポリエステル媒地」を採用。土を使わずに液肥で作物を栽培するため、土壌汚染とは無縁で風評の影響を受けにくいという特徴があります。また肥料の調整など育成のコントロールがしやすく、出荷調整が容易で運作障害が起きにくいなどのメリットがあります。これまで川俣町と近畿大学（大阪）がポリエステル媒地を使い共同で試験栽培を行ってきましたが、大田花き（東京）による試験流通を経て市場での評価を確実なものにしています。2017年に「ポリエステル媒地活用推進組合」が発足し、本格的な事業化に向けて動き出しています。近畿大学による支援は今後も継続される見通しで、「かわまたアンズリウム」のさらなる品質向上、生産性アップに期待が持てる状況となっています。





近畿大学 社会連携推進センター
田中尚道 教授 Naomichi Tanaka

近畿大学は、復興支援の一環として川俣町の産業振興に協力してまいりました。その中でも組合の皆様と一緒に試行錯誤をしてきたアンズリウム栽培が実を結び、この度復興庁、福島県のご支援もあって、川俣町の新たな産業として大輪の花を咲かせようとしています。この事業が益々発展し、復興の確かな証となるように、更なる支援を続けたいと思います。

Flower designed by Michiko Igarashi

—メイド・イン・かわまた—
かわまた
アンズリウム
—Anthurium—

製品ラインアップ
Line-up



ファンタジア
Fantasia

- 仏炎苞 / 乳白色
- 肉穂花序 / 赤色

クリーム地にピンクのフチが優しい雰囲気。夏はさらに淡い色になることも。



ネロ
Nero

- 仏炎苞 / あずき色
- 肉穂花序 / あずき色

イタリア語で「黒」を意味する高級品種。落ち着いた大人の雰囲気。



ミドリ インブルーブド
Midori improved

- 仏炎苞 / 黄緑色
- 肉穂花序 / 黄緑色

緑系の定番品種を改良。周年を通して需要があり、花持ちも良く人気がある。



トロピカル
Tropical

- 仏炎苞 / 赤色
- 肉穂花序 / 黄色

定番の人気品種で比較的年変化が少ない。周年を通して需要がある。



モーメント
Moment

- 仏炎苞 / 白色
- 肉穂花序 / 黄・黄緑色

丸みを帯び、アイボリー色が明るく爽やかな雰囲気。ブライダルにも人気。



ザフィラ
Zafira

- 仏炎苞 / 赤・白・緑色
- 肉穂花序 / 赤色

緑ベースに白とピンクがグラデーションされたスタイリッシュな品種。

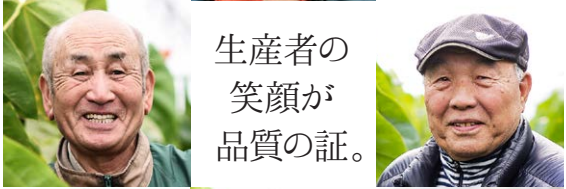


アンズリウム リーフ
Anthurium leaf

深く鮮やかな緑の大型リーフ。品種によって葉脈が赤く色づくものがある。



生産者の
笑顔が
品質の証。



川俣町の人口は13,789人（平成29年10月1日現在）。阿武隈山地西斜面の丘陵地帯にあり、東は相馬郡飯舘村・双葉郡浪江町・南は二本松市、西は福島市飯野町、北は伊達市と接しています。川俣盆地を中心に絹織物の町として発展してきており、シルク製品をはじめ、川俣ジャモ、にがり豆腐、凍みもちなどの食品が名産品です。鮮やかで美しい花「かわまたアンズリウム」が新たな名産品となるよう、町を挙げての支援を受けています。

川俣町ポリエステル媒地活用推進組合

E-mail: y.hid3995@docomo.ne.jp
(事務局・安田秀吉)